

6 3 3 1 - 5 2
平成16年6月28日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除所長

平成16年度病害虫発生予報第3号について
平成16年度病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

平成16年度病害虫発生予報第3号

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。
発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
早期水稲	穂いもち	並	2
	紋枯病	やや少	2
	斑点米カメムシ類	多	2
普通期水稲	葉いもち	並	2
	ウンカ・ヨコバイ類	並	3
	コブノメイガ		3
露地きゅうり (中山間地域)	べと病	並	3
	うどんこ病	やや少	3
	アザミウマ類	並	3
露地野菜全般	アブラムシ類	並	3
	ハスモンヨトウ等鱗翅目(チョウ目)害虫	並	4
トマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV)		4
果樹全般	果樹カメムシ類	並	5
かんきつ	黒点病	並	5
	かいよう病	やや多	5
	ミカンハダニ	並	5
	チャノキイロアザミウマ	並	6
茶	炭疽病	やや少	6
	もち病	並	6
	輪斑病	並	6
	カンザワハダニ	並	6
	チャノコカクモンハマキ	並	6
	チャハマキ	並	6
	チャノホソガ	並	7
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	7
	チャノキイロアザミウマ	並	7
	クワシロカイガラムシ	やや多	7

作物の生育状況(6月中旬)

早期水稲は平年より生育が早く、出穂が始まっているほ場も見られ、普通期水稲は移植直後～活着期であった。温州ミカンは果実肥大期、茶は2番茶収穫前後であった。

7月の気象予報

向う1か月の天候は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されている。

(1か月予報 鹿児島地方気象台6月25日発表)

発生予報の根拠および防除対策

早期水稲

1 穂いもち

病害虫防除情報第4号（葉いもち）参照（平成16年6月16日発表）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の葉いもちの発生面積率35.4%（平年35.4%）、発病株率11.3%（平年14.8%）は平年並である。
- 2) 7月の気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 葉いもちが発生している場合は、穂ばらみ期から穂揃期の防除を確実に行う。
- 2) 雨が続く場合、感染の危険性が高いので雨間でも防除を行う。

2 紋枯病

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生を認めていない。
- 2) 7月の気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 穂ばらみ期の防除が基本となるが、上位葉鞘への進展が続く場合は2回目の散布を行う。

3 斑点米カメムシ類

病害虫発生予察注意報第2号（斑点米カメムシ類）参照（平成16年6月17日発表）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率37.6%（過去7か年平均13.6%）、20回振り虫数1.19頭（過去7か年平均0.3頭）と多い。
- 2) 6月上旬のイタリアンライグラスにおけるすくい取り調査による生息数は、平年よりやや多く、被害の大きかった平成13年と同程度である。

[防除上の注意]

- 1) 米の上位等級確保のためには穂揃期とその7～10日後の2回防除を厳守する。その後も発生が見られる場合には追加防除を行う。
- 2) 出穂の早い、又は遅い水田には集中的に飛来する恐れがあるので注意する。

普通期水稲

1 葉いもち

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生は確認されなかった。
- 2) 7月の気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 本田での初発生に注意し初期防除を徹底する。雨が続く場合、感染の危険性も高いので雨間に防除する。
- 2) 育苗時に葉いもちが発生していた場合、保菌率が高く本田で蔓延するので防除を徹底する。

2 ウンカ・ヨコバイ類

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率は、ツマグロヨコバイでは平年比やや多、ヒメトビウンカでは平年より多、セジロウンカでは平年よりやや少であった。

[防除上の注意]

- 1) 梅雨期に飛来成虫が著しく多く、株当たり虫数が4頭以上になると稲の生育が抑制されるので早めに防除する。
- 2) 育苗箱施薬剤を実施したほ場では、薬効期間や発生状況を考慮して防除する。

3 コブノメイガ

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は飛来世代の次世代の発蛾最盛期に粒剤を施用するのが効果的なので、病虫害除所のホームページ等の発生予察情報に注意する。

露地きゅうり（中山間地域）

1 ベと病

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率45.0%（平年38.1%）、発病葉率1.9%（平年5.7%）は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 多発すると防除が困難なため、予防散布あるいは初期防除に重点をおく。
- 2) 草勢の衰えは発生を助長するので、肥料切れしないよう肥培管理に注意する。

2 うどんこ病

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率9.1%（平年49.5%）は平年より少、発病葉率0.7%（平年4.8%）は平年よりやや少である。

[防除上の注意]

- 1) 最初は葉裏に発生しやすいので注意し、早期発見に努める。
- 2) 葉が老化すると多発する傾向にあるので、老葉はなるべく除去し、通風採光をよくする。

3 アザミウマ類

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では一部ほ場で発生が確認されたが、いずれも葉当り0.5頭以下の微発生であった。

[防除上の注意]

- 1) 生息密度が高くなると防除効果が困難になるので、早期発見に努め初期防除を徹底する。

露地野菜全般

1 アブラムシ類

[予報の根拠]

- 1) 黄色水盤トラップによる誘殺数は、5月4半旬以後平年より少なく推移している。

[防除上の注意]

- 1) 各種のウイルス病を媒介するので、発生初期の防除に努める。

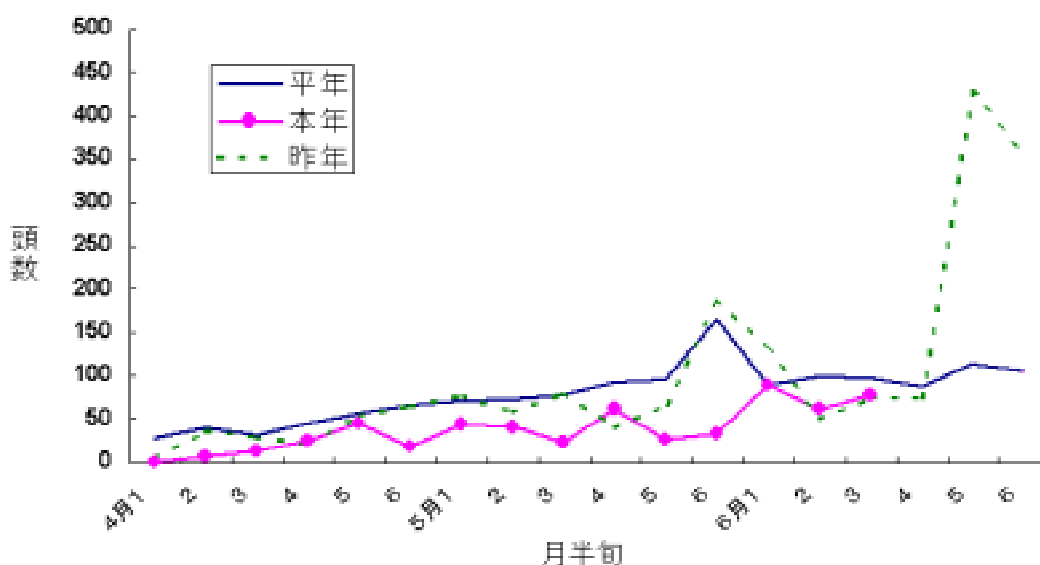
2 ハスモンヨトウ等鱗翅目（チョウ目）害虫

[予報の根拠]

1) フェロモントラップによる誘殺数は、平年とほぼ同等に推移している。

[防除上の注意]

1) 早期発見に努め初期防除を徹底する。



2004年 ハスモンヨトウフェロモントラップ誘殺状況 (農試)

トマト

1 トマト黄化葉巻病 (TYLCV)

[防除上の注意]

- 1) トマト黄化葉巻病はシルバーリーフコナジラミによって伝染するので、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場から持ち出し埋めて処分する。
- 2) 育苗施設も含めて、栽培ほ場内外の雑草その他栽培植物はシルバーリーフコナジラミの寄主植物となるので、除草を徹底し栽培ほ場内外で不要な作物や観葉植物等を栽培しない。
- 3) 栽培終了後は株を抜き取り、10日間程度施設を密閉してシルバーリーフコナジラミを死滅させた後、残さを処分する。
- 4) 育苗施設の開口部は、シルバーリーフコナジラミの侵入を防ぐために、最大でも0.8mm目以下(0.4mmが望ましい)の防虫ネットを設置し、育苗期間中は定期的に防除する。
- 5) 台風6号対策等で早期にビニル被覆を除去した地域では、シルバーリーフコナジラミが野外へ飛散したと思われるので、次期作に当たっては地域で一斉防除や除草対策を行うなど十分な対策をとる。

果樹全般

1 果樹カメムシ類

[予報の根拠]

- 1) フェロモントラップによる最近1か月間(5月4半旬～6月3半旬)のチャバネアオカメムシの誘殺数は、過去5か年平均と比較して同程度である。
- 2) 予察灯による誘殺数は平年並である。

表 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの誘殺数(5月4半旬～6月3半旬)

	延岡市		都農町	
	チャバネ	ツヤア	チャバネ	ツヤア
平成16年	115	58	132	3
平均(平11～15)	122	11	168	12
平成11年	125	4	153	13
12年	86	10	524	46
13年	4	0	64	0
14年	284	26	75	0
15年	112	17	26	0

[防除上の注意]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見、早期防除に努める。

かんきつ

1 黒点病

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率22.2%(平年26.2%)、発病葉率2.7%(平年5.6%)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は幼果期、梅雨期、8～9月上旬であるが、降水量が多いほど発生が多くなるので、前回の防除から積算降水量300mmを散布間隔の目安として薬剤散布を行う。

2 かいよう病

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率14.8%(平年14.0%)、発病葉率1.3%(平年1.3%)は平年並である。
- 2) ミカンハモグリガの発生は平年よりやや多い。
- 3) 台風6号の影響による幼果等の傷害が感染を助長する恐れがある。

[防除上の注意]

- 1) 梅雨期に予防散布する。
- 2) ミカンハモグリガの防除に務める。

3 ミカンハダニ

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率29.6%(平年31.7%)、寄生葉率5.6%(平年13.7%)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率 30% (1 葉当たり虫数 0.5 ~ 1 頭) を目安に防除を行う。

4 チャノキロアザミウマ

[予報の根拠]

- 1) 6 月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- 1) 5 月中旬から 9 月上旬の間、数回防除する。

茶

1 炭疽病

[予報の根拠]

- 1) 6 月中旬の発生面積率 21.1% (平年 42.4%)、 m^2 当たり病葉数 0.4 葉 (平年 2.7 葉) は平年よりやや少ない。
- 2) 7 月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 3 番茶を摘採する茶園では 3 番茶芽の萌芽期 ~ 1 葉期に防除し、3 番茶を摘採しない茶園ではさらに秋芽の生育期にも防除する。

2 もち病

[予報の根拠]

- 1) 6 月中旬の発生面積率 10.5% (平年 11.7%)、 m^2 当り病葉数 0.9 葉 (平年 1.5 葉) は平年並である。
- 2) 7 月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 潜伏期間が約 10 日間と短いので、3 番茶を摘採する常発地では 3 番茶の萌芽期 ~ 展葉期に防除する。

3 カンザワハダニ

[予報の根拠]

- 1) 6 月中旬の発生面積率 47.4% (平年 47.9%)、寄生葉率 5.6% (平年 7.4%) は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤の口 - テ - ション散布を実施する。

4 チャノコカクモンハマキ

[予報の根拠]

- 1) 6 月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- 1) フェロモントラップ調査による発蛾最盛期は、都城では 6 月 2 半旬、田野町及び三股町では 6 月 3 ~ 4 半旬で、次回の発蛾最盛期は 7 月 3 ~ 4 半旬頃と考えられる。
- 2) 顆粒病ウイルスによる防除適期は、発蛾最盛期の 10 日後であるが、そのころは紫外線が強く、顆粒病ウイルスの活性が低下しやすいので曇天日や夕方に散布する。

5 チャハマキ

[予報の根拠]

- 1) 6 月中旬の発生面積率 5.3% (平年 7.8%)、 m^2 当り巻葉数 0.1 葉 (平年 0.2 葉) は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) チャノコカクモンハマキの発蛾最盛期と 10 日以上差がなければ、同時防除する。

6 チャノホソガ

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率26.3% (平年22.9%) は平年より多く、m²当り巻葉数0.9葉 (平年0.9葉) は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 平年の発蛾最盛期は6月下旬～7月上旬であるが。三角巻葉前に防除することが必要で、発蛾最盛期の約10日後 (葉裏の表皮下でトンネル状に潜孔している時期) が防除適期である。
- 2) 脱皮阻害剤は遅効性なので卵期に散布する。

7 チャノミドリヒメヨコバイ

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率15.8% (平年32.1%)、寄生葉率0.7% (平年2.7%) は平年よりやや少ない。

[防除上の注意]

- 1) 萌芽直後から1、2葉期を重点に防除する。

8 チャノキイロアザミウマ

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬 (払い落とし) の発生面積率68.4% (平年64.2%)、寄生葉率5.2% (平年13.6%) は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 例年、2番茶期から発生が増えてくるので注意する。

9 クワシロカイガラムシ

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率31.6% (平年16.3%)、寄生株率7.4% (平年7.0%) は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 最近、増加傾向にあるので早期発見に努め、密度の低いうちに防除する。
- 2) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期なので、ふ化状況をよく観察して防除する。
- 3) 薬剤散布は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

その他

- 1 防除上の留意点等については、「病虫害・雑草防除等指導指針」(宮崎県・宮崎県植物防疫協会) を参照するが、農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤 (商品名、マリックス乳剤、粒剤等) は使用しないこと。

3 発生量 (程度) の区分

多	い	(高	い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い		(やや高	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並				平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない		(やや低	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない		(低	い)	やや少ないの外側10%の度数の入る幅
(平年値は過去10年間の平均)				

4 予察情報の種類

病虫害防除所から発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報・・・主要な病虫害の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報・・・主要な病虫害の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病虫害がある時や、病虫害の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病虫害の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。(従来の防除速報にあたる)

お知らせ (<http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除所では、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を登録しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病虫害防除所 櫛間

TEL : 0985-73-6670

FAX : 0985-73-7499

E-mail : ykusima@pref.miyazaki.jp